

2014年度事業報告書

当、公益社団法人マスコミ世論研究所は、2014年度は以下のような事業を実施した。

1. 草の実アカデミー（諸分野における時事問題について、マスコミおよび当事者視点による情報の普及、及び世論の健全な形成を促進する事業）

当研究所の40年近くに及ぶ世論運動の蓄積を受けて2007年末に生まれた「草の実アカデミー」は、二分化社会の中で、本来あるべきアカデミズムとジャーナリズムの視座を、圧倒的な大衆（＝草の実）の日常の声の積み重ねの中に探してみたいと考えたものである。

在野の専門家達にスポットを当て、大衆の学びの場を提供する中での「草の実の世論」の錬磨を目指し、以下の取り組みを行った。

[1] 講演会、セミナー等の開催

① 講演会・セミナーの開催

原則月1回の定例開催を行い、延べ250人が参加した。各回、1～2名の内外講師による講義（60～120分程度）と講義内容に基づく質疑応答およびディスカッション（60分程度）で、以下の様なテーマを扱った。

- ・三宅勝久氏（ジャーナリスト）、林克明氏（ジャーナリスト）
大学問題三点セット 奨学金・学費値上げ・非常勤講師の待遇差別（4月19日）
- ・足立昌勝氏（関東学院大学名誉教授）
秘密保護法と盗聴法の拡大（5月17日）
- ・アツミマサズミ氏（オリンピックはいらないネット）
東京オリンピック問題入門編＝国立競技場解体の問題点（6月21日）
- ・山岡俊介氏（ジャーナリスト）
企業スキャンダル追及の四半世紀（7月19日）
- ・畠山理仁氏（ジャーナリスト）
秘密保護法パブリックコメント勉強会（8月16日）
- ・二本松進氏（国家賠償請求訴訟原告）
駐禁違反&公務施行妨害でち上げ事件（9月20日）
- ・黒薮哲哉氏（ジャーナリスト）
朝日バッシングと御用メディア&御用文化人（10月18日）
- ・田中広喜氏（演出家、劇作家）
秘密保護法をテーマとしたミュージカル「THE SECRET GARDEN—嘘の中にある真実」
制作上演余話（11月15日）
- ・上出義樹氏（ジャーナリスト、元北海道新聞編集委員）
秘密保護法時代に読む「大本営記者日記」（12月21日）
- ・太田光征氏（選挙無効訴訟原告）
総選挙結果分析と衆院選無効訴訟（1月17日）

- ・田保寿一氏（ドキュメンタリー映画監督）
「イスラム国」前史（2月21日）
- ・小西誠氏（「自衛官人権ホットライン」事務局長）
自衛隊のパワハラ・いじめ（3月28日）

② 講演会・セミナーのインターネット中継と動画の保存公開

講演会やシンポジウムはインターネットで中継し、映像をアーカイブとして保存、「草の実アカデミー・ブログ」からも一般に公開した。今年度から全部の回で中継が行われ、保存公開も含めると延べ900人が視聴している。

③ ホームページやメールマガジンの運営

「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」（今年度は27号を発行）を通じて、活動予定および実施した講演会等の活動内容についてタイムリーに広報し、テーマや講師陣などこれまでの実績を掲載した。また終了後の報告も掲載した。

④ 講演内容の書籍化

2013年12月20日の宇都宮健児弁護士講演、14年3月15日の堀敏明弁護士の講演、同日の秘密保護法訴訟原告・林克明氏の話、14年5月17日足立昌勝・関東学院大学名誉教授の講演、をベースに、「秘密保護法——社会はどう変わるのか」（集英社新書）が書籍化された。

⑤ 講師交流会の開催

今年度は12月に講師陣の交流会を開き、情報交換や多方面との連携を図った。

[2] マスコミ情報の収集・分析

① マスコミ情報の収集・分析及び調査結果の公開

ある時事問題に関する取材・著作などにおいて際立った業績を残している方や、中心的立場にある当事者へのインタビュー（取材）を行う。その調査結果は主に講演会・セミナーの企画に反映している。今年度は特に、特定秘密保護法を重点テーマとした。

また今年度は、特定秘密保護法の施行日をはさんで行われた衆議院選挙に際し、東京都内の全候補者を対象に同法についてのアンケート調査を行いホームページより公開した。

② インターネット「世論力テレビ」局

新番組の更新はしていないが、過去の調査結果の一部について番組アーカイブやデータベースの提供は継続して行っている。

過去の調査結果の一部についてはインターネット「世論力テレビ」局で、番組アーカイブやデータベースとして提供している。「二世三世議員リスト」等がある。

2. 一般市民が語る戦場体験の記録・保存・継承に関する事業（戦場体験放映保存運動）

[1] 世論資料の収集、研究

① 戦場体験の語り・継承の記録の収集

日本の敗戦後から現在まで、主に体験者世代によって戦場体験がどのように語り継がれ、またどのように受け止められてきたかを、マスコミ情報や当事者らの活動履歴から幅広く調査する。この目的のために、2014年から以下2点の取り組みを開始した。

(ア) 日本における戦場体験の語りおよび継承について、これまでの活動の内容やあり方を振り返り、将来像を考えるための資料として、以下のものを収集する。

- ・ 体験者による記録（手記、日記、著作、絵画など）
- ・ 戦場体験のインタビュー記録
- ・ 体験者個人、および体験者の団体（戦友会など）が発行した書籍や冊子
- ・ 戦場体験の語り・継承にかかわる活動の記録（講演会の記録など）
- ・ 当時の書類や写真

(イ) 収集した記録のうち一次資料および当時の書類や写真などを戦場体験史料館で公開する。公開にあたっては、第三者による編集を行わない状態（手記を写真で公開するなど）で公開する。

活動の初年度である2014年度、主に以下の方法で資料収集の呼びかけを行った。

- ・ 主催イベントの会場におけるパンフレット配布
- ・ 新聞・ラジオ等のマスコミ取材を通じての呼びかけ
- ・ ホームページ（戦場体験史料館）を通じた呼びかけ
- ・ 体験者への訪問時にご本人・ご家族へご案内

NHK ラジオへの出演や、全国各地でのインタビュー活動などにより、全国の広範な地域から約40名の方に資料提供を頂いた。体験談をまとめた冊子、戦友会発行の文集、当時の写真など希少性の高い資料である。次年度以降もこれらの呼びかけを継続していく。

資料の公開については特筆すべき成果を出せていない。当然ながら、著作権上の制約があるものは公開の対象外であるが、それ以外の資料について公開にはいまだ至っていない。資料の整理および公開のための加工作業にかなりの工数が必要であるが、インタビュー記録の収集などより優先度の高い活動にリソースを集中させざるを得ないのが実情である。

② 戦場体験のインタビュー記録の収集

戦後70年目を迎えるなか、体験談のインタビューは最も優先度の高い活動テーマである。2014年度においても、最後まで一人でも多くの体験を集めるべく、以下の活動を行った。

(ア) 体験者の掘り起し

(イ) 地域特性が強い戦場体験を全国規模で掘り起こすため「戦場体験を放映保存する老若の全国キャラバン隊」の継続（全国での体験談のインタビュー活動）

特に「全国キャラバン隊」として、以下の地域において約70名の体験談のインタビューを行った。

関東・甲信越（5月）、函館（5月）、仙台（9月）、福島（10月）、

福島・山形（12月）、沖縄（2月）

[2] 戦場体験資料の公開、継承（戦場体験史料館）

① 「戦場体験史料館・電子版」収蔵人数の拡張

2014年度の目標250名に対して、約100名の進捗となっており、大幅に目標が未達の状態である。

なお、250名分の体験談の文章はすでに出来上がっており、その文章をWeb化する作業がボトルネックとなっている。2015年の夏季に上記の目標を達成できるよう計画を立てる必要がある。

② 「戦場体験史料館・電子版」内容の拡充

集中期間初年度の2013年度に引き続き、以下の内容を中心に掲載内容の拡充を行うべく取り組んできた。

- (ア) 証言映像の増加
- (イ) 地図の掲載
- (ウ) 現地の写真の収集・掲載
- (エ) 物品史料館のページの開設
- (オ) 検索機能の追加
- (カ) 電子版の英語翻訳ページの作成

証言映像および写真、物品の掲載については上記と同様にWeb化の作業において進捗が遅れている。また、検索機能の追加は、閲覧者の利便性を高めるために早急に対応すべきである。地図の掲載および検索機能の追加については既存の外部サービスとの連動など、技術的な可能性を検討している。

③ “語り継ぐ”活動

(ア) 「元兵士・戦場体験・百人展」の開催

元兵士世代から社会に向けて直接体験を伝える場として、戦場体験の展示イベント「元兵士・戦場体験・百人展 Part II」（戦場体験の展示会、ミニ証言会）を以下の会場で行った。

- ・8月22日～27日 仙台 延べ千人が来場
- ・11月1日～3日 長野 約200名が来場

(イ) 展示パネルの作成、貸出

展示イベントをより多くの場所で開催するために、効率的に会場設営ができるように展示品をパネル状に整備した。またその一部を、「野田市戦争かたりべの会」など3つの外部団体に貸出した。貸出しサービスの告知を引き続き行っていく。

(ウ) 「戦場体験キャラバン」の編集

これまでの聞き取りの中から、15年戦争のそれぞれの時期や各戦地を網羅的に紹介できるよう24名の証言を選び、聞き書きの形で紹介する書籍を編集した。

(エ) 交歓会の開催

元兵士と戦争を知らない世代のボランティアの交流の場を10月および3月に開催し、各回に約70名の参加者が集った。

④ 戦場体験放映保存運動に関する広報活動

(ア) 「史料館つうしん」の発行

2014年6月、7月（号外、展示会の案内）、10月の3回の発行を行った。

以上